特 集

# コミュニティから見た自分の生活

人は生きていく上でなんらかのコミュニティに属しています。広くは「地域社会」がそうです。地域社会を形成する集団の一員として我々は暮らしています。しかしここで考えたいのは広域ではなく狭域でのコミュニティ＝目的や趣向を同じくする人々の集団です。普段我々は生活する上で、ひとつではなく数々の小さなコミュニティに属して暮らしています。しかもそれらが幾重にも円が重なるようにあなたの回りに形作られているはずです。私であれば、障害者というコミュニティ、頸髄損傷というコミュニティ、NPO 法人や家族および友人という小さなものに至るまで数多くのコミュニティに属しています。

今年に入って我々が今まで経験したことのない事態に直面しました。新型コロナウイルスがここまで社会的影響を与え、社会的距離をとらざるを得ないことになろうと想像できたでしょうか。あらゆるコミュニティから離れ、自宅にこもることになろうとは考えもしなかったことだと思います。人とのつながりが絶たれたことで、あらためてコミュニティの重要性を実感したのではないでしょうか。普段は意識することもなかったけれども、様々なコミュニティの中で自分が活かされていたことに気づいたのではないでしょうか。

今回の特集では、自分がどのようなコミュニティに属しているのか、またはコミュニティが自分にとってどのような存在であるのかをあらためて考える機会とします。また、今回のような自粛生活を体験したことで、コミュニティに求めるものや「このようなコミュニティがあればよい」といった各執筆者の思いも書いてもらっています。ご一読いただけると幸いです。（宮野　秀樹）